

第 36 回中井町地域公共交通会議 議事録

日時：令和 4 年 8 月 23 日（月）10 時 00 分～

場所：中井町農村環境改善センター 2 階 研修室

【会議次第】

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 協議事項

(1) 中井町地域公共交通計画策定に係るアンケート調査の実施について 承認事項

- 4 報告事項

(1) 中井町地域公共交通計画策定の策定スケジュールについて

(2) 中井町オンデマンドバス希望ポイント降車サービスについて

- 5 その他
- 6 閉会

【協議事項の議事】

- 3 協議事項

(1) 中井町地域公共交通計画策定に係るアンケート調査の実施について

資料 1 により事務局より説明。

会 長：資料 1 についてご意見をいただきたい。お時間が許す範囲で、資料 1 - 2、1 - 3 についても調査項目についてお気づきの点があればご意見を頂ければと思う。

委 員：交通困難者の困りごと等を把握するために社会福祉協議会や民生委員の方に話を聞くとあるが、実際に交通困難者がどういった公共交通を必要としているのか、それぞれにニーズをもっていると思うので、交通困難者を対象としたもう少し詳細なアンケートを行う必要があると感じた。このアンケートの目的は交通困難者に重点を置いたものなのか、もしくは全体的にニーズを把握するものなのか伺いたい。

事 務 局：町民アンケート調査については、交通空白地域や交通困難者を対象にするわけではなく、無作為で抽出した町民 2,000 人を対象として実施する。当然その中に交通空白地域にお住いの方やそうでない方もいることになる。

委 員：調査の実施方法は書いてある通りなので分かるが、本来本当に公共交通を必要としている人の意見がぼやけてしまうのではないかと感じた。

事 務 局：交通困難者に特化した調査を行ってはどうかというご意見ということか。

委 員：もう少し目的を明確にした方が、結果が分かりやすいのかなと思った。

このアンケートの目的は、地域公共交通計画を策定するために、今後中井町の交通体系をどうしていくかということなので、こういった内容のアンケートになるのは致し方ないのかなと思う。ただ、一つ疑問に感じるのは、これまで 10 年近くに渡ってオンデマンドバス等のいろいろな取り組みを行う中で、様々な矛盾や問題点が出てきているはずなので、それをさらに分析していく必要がある。こういう計画を作ると公共交通機関と

の連携が第一に考えられるが、果たして今の中井町の状況でうまくいくのか疑問に思う。事業者の方には失礼かと思うが、現在中村地区にはほとんどバスの利用者がいないように思える。二宮から秦野の井ノ口地区等では連携が考えられるが、それ以外の地区ではもう少し分析して考えていくべき。関係団体の中で、社会福祉協議会との連携可能性の把握としてアンケートの実施とあるが、事業そのものが違うため、連携の可能性が考えられない。今、社会福祉協議会で有償のものをやっているが、民間業者も既に行っている。

事務局：路線バスとの連携については、交通体系の幹線については路線バスを基軸にしていきたいという考え方は承継せざるを得ない。委員が言うように、井ノ口地区は本数も含め利用者が多いので、例えば中村から井ノ口への移動手段を考えることも含めて、オンデマンドバスを使いながら幹線交通として路線バスを支えていく考え方が必要であると考えている。また、社会福祉協議会で実施している福祉有償サービスとの連携については、委員が言うように公共交通というより法的に利用者の枠組みが決まっているので、連携が難しいのは承知しているが、中井町全体の公共交通を見た時に、公共交通の運行という点で、連携できる可能性があるのではないかとこのところアンケートを行いたいと思っている。

委員：路線バスを含めた中井町全体の交通体系を考えるということは分かる。ただ、路線バスを補完するものとしてオンデマンド等があるというが、どのような形で補完していくのか、交通困難者が実際にどのようなニーズを持っているのかというのをそれぞれ把握した方がよいのではないかとこの意味で申し上げた。

事務局：実際に中井町には交通空白地域が存在しているため、ニーズの把握は当然必要であると考えている。町民アンケートでの反映を検討させていただく。また、本日お示しできず申し訳ないが、オンデマンドバスの実利用者は200人のため、オンデマンドバスに登録をしているものの、利用していない人に対するアンケートでも反映できるか検討していきたい。

委員：オンデマンド実利用者200人、非利用者300人とあるが、利用が少ないのは非利用者がなぜ使わないのかということが要因になってくる。自分も登録しているが、使ったことがない。使いたいと思っても、予約が必要だから面倒くさい。使わない理由を明確にすれば、利用者は増えていくのではないかと。利用している方がより便利になるために利用者に対するアンケートももちろん必要だが、利用していない人に対して、今300人となっているがもう少し増やしてはどうか。

事務局：オンデマンドバス登録者は3,000人弱で、そのうち利用者が200人程度いる。圧倒的に利用されていない方が多いため、なんで利用しないのか、今後使うために登録だけされている方や、委員が言うように使い勝手が悪くて使わない人もいるかと思うので、それを把握するための調査項目を検討していきたいと思っている。調査の係数について、非利用者300人ということで約1割の方をフォローできるため、事務局としては適当な数であると理解している。

委員：アンケートを取る人は、ランダムに行うのか、もしくは役場周辺や井ノ口等は公共交通機関が使いやすいと思うので逆に利用の少ない地域を多めにとる等検討してもらえばと思う。

- 事務局：統計の精度等も踏まえながら、調査の実施方法については事業者と調整を行っていく。
- L B：今回町民アンケートで2,000人、オンデマンドバス調査で3,000人と合わせて5,000人となるとすごい数になってしまう。町民アンケートでもオンデマンドバスについての設問があるため、そちらも併せてフォローが出来るのかなと考えている。
- 会長：先ほど、委員から連携とはそもそも何かという話があったかと思う。計画に反映させるのはいいが、アンケートの内容として、連携に関わる設問があるのか。
- 事務局：アンケートの詳細な内容はこれから検討していくものであるため、連携というよりかは、利用者が福祉有償運送とデマンドバスの対象者の棲み分けという部分を含めての連携として考えているが、今いただいた意見を踏まえて検討させていただきたい。
- L B：国でも地域の輸送資源の総動員と言われており、交通は交通、福祉は福祉ではなく棲み分けの話も含めて連携の可能性という視点はあり得ると考える。具体的な連携方法はこれから検討が必要である。
- 会長：連携というといろいろな解釈の仕方があると思うが、委員が言うのは乗り継ぎという意味で捉えると、おそらくそれはいないという意味で、確かにそれは難しいと考える。一方で、同じ人でも町の中ではオンデマンドバスを使い、町外に出る時には路線バスを使うという人もいると思うので、交通機関ごとに上手に役割分担を行う。ただし、役割分担をしっかりしすぎると漏れる人が出てきてしまうため、被る部分も作りながら相互に理解しながら連携をするということが必要。バスのネットワークやシステムの話で、一緒にしていくのがいいかというのは個別の話で、中井町でそれがいいかどうかは検討が必要。誰がどの交通機関を使うかというように人で分けるのではなく、行先や目的で分けることが必要。例えば4ページ目で交通手段を聞いているが、例えば買い物や通院だったら、社会福祉協議会のサービスも入れてもいいかもしれない。有償運送のサービスと別に買い物代行等もしているのか。
- 委員：今は有償運送のみである。そのあたりの話をどのように公共交通計画の中に入れていけるのか、今まで補完としてやってきているオンデマンドバスや有償運送を、これまでと同じような積み重ねでやっても意味がない。補完で成り立つのは井ノ口地区のような場所で、境地区や中村地区ではそういったものが生まれてこないのが実情。バスの利用規制が始まって10何年経つが、今まで公共交通の柱となるバス会社が赤字でもなんとか路線を維持してきたが、規制依頼赤字路線はどんどん廃止している。境地区では地域で年間700万円くらい補填しているといった実情を踏まえれば、本計画の策定にあたっても大体な施策があっても良いかと思う。
- 委員：先ほど補完という話が出たが、その補完のレベルが疑問である。本当はオンデマンドバスから路線バスに乗り継がずに直接目的地に行きたいというのが本音であると思うが、そうすると路線バスと競合してしまう。その程度なら補完として乗れないのか、補完という意味がどこまでのレベルなのかを詰めていただきたい。
- 会長：アンケート内容は検討段階であると思うが、まず困っている方の困りレベルは聞くべきであるというご意見については、問5で困り具合という設問項目があるが、少なくともどういう行先なり目的の時に困るのか、車を持っている人とそうでない人でどう違うのかといったものを入れられるといいかもしれない。どう困っているのかまでは聞けていないが、困っている具合が地区ごとにどのくらい違うのかを出したいということで現在

作成されている。あとは、歩けるかどうかというところで問6が設定されている。さらに、鴨沢地区でバスに乗るまでが大変という意見はもちろん、中村地区のようにバスが30分おきにあっても使わない方もいる。そういう方が1割でもバスを使っただけだとバスの維持にはかなり重要で、6ページの鉄道に関する設問では駅までの利用手段等を聞く設問を入れている。総合計画の際に駅まで行くのが大変という意見が多く挙がっていたところで、きちんと考えなければならない。交通不便地域などはオンデマンドバスもあるので、オンデマンドバスのアンケートで把握できると思い、駅までの手段に関する設問を町民アンケートに入れたが、確かに困りぐあいだけでなくその内容や、オンデマンドバスの非利用者が非常に多いことから、そうした内容も町民アンケートに入れるということも考えられると感じた。

委員：分析は大変かと思うが、是非実態把握というところは細かくやっていただきたい。

委員：資料1-3の問5で料金という言葉があるが、これは運賃のことを指しているのか。

事務局：利用している社員の方からお金を取っているのか、もしくは無料で行っているのかを確認する意味合いの設問である。

委員：お金をとるということは、道路運送法に抵触している可能性があるのでは、言葉遣いを慎重にした方がいい。

会長：かなりグレーな形でお金をとっている可能性がある。実際に問題になっている事例もあるので、従業員負担あり、従業員負担なしという聞き方でどうか。

委員：それなら問題ないと思われる。

委員：このアンケートだけいきなり送られてきても内容が分からない。お金がかかっていると文章だけで言われても分からないので、漫画やポンチ絵のようなものを付けないと、理解してもらいづらいのではないかと。前段で、こういう目的だよというのが文章だけではわかりづらい。今の町の交通の現状やお金をいくら使っていてどこにいくらかかっているのか、グラフ的なものがあった方が資料1-2の問20を答えるにあたって判断材料になる。高齢者は困っていても文章を読むのが面倒で答えられないかもしれない。

事務局：通常のアンケート調査では3~4割程度の回収率である。多くの方に回答してほしいため、委員が仰いますように、まずは正確に理解してもらうこと、またアンケートに答えたいと思えるような工夫をしていきたい。どこまでできるかは分からないが、検討していきたい。

会長：路線バスと言われてもパッと分からない人もいないかもしれない。資料1-2の問20について、説明しすぎると答えを誘導する可能性があるし、言わないと理解できないこともあるので、要検討である。

委員：問14で、「乗り方が分からない」という選択肢を入れていただけるとよい。その回答が多いのであれば乗り方の説明が必要になるかもしれないと感じた。

会長：運賃の支払い方が分からないという方もいないかもしれない。実際に条件があれば利用すると答えた方も本当に使うかは分からないので、もう少し意味のある設問にできる工夫はあるかもしれない。

委員：問13で「②利用したい時刻に運行しているか」とあるがそれよりも「バスの時刻表が分かるか」という設問の方がいいのではないかと。

会長：問11でダイヤを知っているかという設問を設けている。

- 委員：あまり意味がない設問のように思える。朝晩は多少本数が多いが、日中は2本程度である。6月にダイヤ改正をして10%減った。ここに希望を入れても無駄だと感じた。
- 会長：改善策を模索するというより、今皆さんがどう考えているかの意向把握という意味での設問である。出来ないものは出来ないが、その出来ない理由をご理解いただくことも必要。
- 委員：中井町でバスが使われないのは時間帯の問題ではないかもしれない。一番僻地から二宮か秦野まで車なら15から20分だが、バスを使うと40～50分かかってしまう。
- 会長：所要時間に対する満足度は聞いてもいいかもしれない。
- 委員：年齢とともに膝が悪くてバスに乗ることができないとか、オンデマンドバスの停留所まで行けないとか、バスに乗る階段も上がれないからそもそもバスに乗る選択肢がない人もいる。
- 会長：問6で歩けるかどうかという聞き方も検討が必要である。
- 委員：問13はバスがない地区の人に聞く意味はないのではないか。
- 会長：町全体の話ではあるが、その場合は分からなくて答えられない方はいるかもしれない。バス停から遠い方をうまくピックアップして分析できないか検討出来るとよい。
- 委員：文言はこれから修正するのか。
- 事務局：その通りである。
- 委員：例えば、問1の6) で世帯数の保有台数を聞いているので、自動車ありという選択肢はないのではないか。問4は1つに○とあるが、「1. ある」と回答した方はその後ももう一つ○を付ける必要がある。
- 会長：細かい修正もあるかと思うので、アンケートの最終版は委員の方に共有するか。
- 事務局：発送の前に、皆様にお送りして確認することは可能である。
- 会長：そういう機会を設けられるとよい。それでは、また次の機会があるということでアンケートについては以上とする。

4 報告事項

(1) 中井町地域公共交通計画策定の策定スケジュールについて

参考資料1により事務局より説明。

- 会長：スケジュールについてご意見なければ参考資料2について説明をお願いします。

※特に意見なし

(2) 中井町オンデマンドバス希望ポイント降車サービスについて

参考資料2により事務局より説明。

- 会長：何かご発言はあるか。

委員：今回、車両が大きくなり、都市部ではなかなか家の前まで送るといったことができないサイズであるが、警察にも確認しながら進めているのでご理解いただければと思う。

- 会長：その他発言がなければ進行を事務局にお戻しする。

以上